

ひょうご伝説紀行

- 語り継がれる村・人・習俗 -

弁慶の鏡井戸

弁慶若き日の破天荒な大暴れ

弁慶岩

怪力無双弁慶の化け物退治



伝説 弁慶の鏡井戸
弁慶若き日の破天荒な大暴れ
弁慶岩
怪力無双弁慶の化け物退治

紀行 弁慶ここにあり ～愛すべきヒーローの伝説～
・弁慶の人となりと兵庫の弁慶伝説
・始まりは書写山
・弁慶地蔵
・山を運ぼうとした弁慶
・幻の弁慶岩

関連情報 用語解説
参考書籍
所在地リスト

弁慶の鏡井戸

弁慶若き日の破天荒な大暴れ

弁慶（べんけい）といえば、源義経（みなもとのよしつね）の家来で、剛勇無双（ごうゆうむそう）の人として有名です。一方で、義経と運命を共にした悲運も、多くの人にお生まれ、愛された理由かもしれません。弁慶の伝説は全国各地に残されていますが、とてつもない武勇伝がたくさんあります。そして兵庫県にも、弁慶の伝説は数多く伝えられています。

弁慶は青年時代一時期を、書写山円教寺（しょしゃざんえんぎょうじ）で過ごしました。もとは比叡山（ひえいざん）にいたのですが、どうやらいたずらや悪行が過ぎて、山を追い出されたらしいのです。

書写山にやって来た弁慶は、しばらくの間、修行者として心静かに仏に仕えました。そんなある夏のことです。説法を聞きにやってきた若い僧が、いたずらをしてやろうと、弁慶に酒をすすめました。弁慶はしたたかに飲み、酔いつぶれてねむりこんでしまいます。僧はさっそく、弁慶の顔に墨（すみ）でいたずら書きをしました。

まず右のほおに暴れ馬の絵をかいて、

「武蔵坊 荒れたる駒（こま）に さも似たり 拍子をはけて つなぎ止めはや」

左のほおには、平げたの絵をかいて、

「弁慶は 平げたにこそ 似たりけれ 目より鼻緒（はなお）を すけてはかはや」

まわりの僧たちは、これを見て大笑いしました。

その声でようやく目を覚ました弁慶を見て、あたりの者はいっそう笑います。不審に思った弁慶は、食堂から走り出て、とりにあった井戸の水に顔を映して見ました。

いたずらされたのを知った弁慶は烈火（れっか）のように怒り、僧たちと大げんかになりました。心恩坊妙俊（しんおんぼうみょうしゅん）という僧がかけつけて、長刀（なぎなた）できりつけましたが、たちまちうばわれて大講堂の屋根へ投げあげられてしまいます。次に太刀（たち）できりかかりますがこれも同じ。ならばとばかり、そばにあった火のついた木の棒で打ちかかりましたが、弁慶はこれも軽々とうばい取って講堂の屋根に放りあげました。

ついには、取り囲んだ僧たちがどっと打ちかかりましたが、もちろん弁慶の敵ではありません。きりつける者を次から次へとなぎたおし、とうとう五十人余りをきり捨ててしまいます。弁慶のあまりの強さに、残った者はくもの子を散らすようににげてしまいました。

折からの風に、棒に残っていた火はたちまち燃え広がって、またたく間に、大講堂（だいこうどう）、多宝塔（たほうとう）、文殊堂（もんじゅどう）、五重の塔（ごじゅうのとう）などへ広がって、全山は炎に包まれてしまったといいます。

弁慶は、「仏や伽藍（がらん）にはうらみはない。必ず再建しよう」と言い残して去ってゆきました。

その後、朝廷（ちょうてい）の命令で円教寺が再建されたとき、弁慶はふたたび書写山を訪れて、「新しい伽藍ができたのは、農（わし）のご奉公によるものだ。農は悪行を好むから、平家の太刀を千本うばって、比叡山に供えよう」と仏にちかったということです。

それが後に京の都での、義経との出会いにつながるようになることは、この時、弁慶自身夢にも思っていなかったにちがいありません。

弁慶岩

怪力無双弁慶の化け物退治

但馬（たじま）地方のお話です。

ある夜、真っ暗な道を、ひとりのお百姓さんが家に向かって歩いていました。急ぎ足で帰りたいのですが、あんまり暗いのでそうもゆきません。ようやく前原清水（まえはらしみず）という所まで来たとき、前の方にぼんやりと白いものが見えました。

「むかえに来てくれたのかな」と、喜んで立ち止まっていると、その白いものはどんどん近づいてきます。くらやみにうかびあがったその姿を見て、お百姓さんは腰をぬかしてしまいました。それは、背たけが二メートル以上もある、髪の毛をふりみだした怪物だったのです。

はいつくばったまま、息をつまらせているお百姓さんに気づかなかったのか、怪物はずしん、ずしんと通り過ぎてゆきました。まもなく、「ずずーっ、ずーっ」という音がするので、そっと顔を上げてみると、目の前の川の水がさかさまに流れるほどの勢いで、怪物が水を飲んでいました。

水を飲み終わると、怪物はまた、大きな足音をひびかせながら通り過ぎてゆきました。

お百姓さんはしばらく、こしをぬかしたまま動けませんでした。やがて月がのぼってきたので、ぶるぶるふるえる足で、ころがるように村へかけ込みました。

この話を聞いて、村の人たちはとほうにくれました。なにしろこの道は、山へ草かりに行くための一本道なのです。困り果てた村の人たちは、この怪物を退治してくれるよう、弁慶にたのむことにしました。

弁慶はさっそく、馬に乗ってやってきました。そして怪物が出る道で、仁王立ちに立って待っていました。

日が暮れてしばらくすると、怪物が水を飲みにあられました。待っていた弁慶は、大長刀（おおなぎなた）を風車のようにまわすと、「えいっ」というものすごい気合いとともにきりつけました。確かに手応えがあったと思ったとたん、怪物の姿はけむりのように消えて、あとにはくらやみだけが残っていました。

朝になってみると、そこには昨日までなかった大岩がころがっていました。そのまん中に長刀の傷が二メートルほどもついていて、そこからたくさん血が流れていました。

怪物は弁慶にきられるとき、岩に化けようとしたのですが、岩になりきるより早く、弁慶の大長刀できられてしまったのでしょう。怪物が化けた大岩は、弁慶岩とよばれ、長い間そこに残っていたそうです。

紀行「弁慶ここにあり ～愛すべきヒーローの伝説～」

弁慶の人となりと兵庫の弁慶伝説

弁慶（べんけい）が実在の人物かどうかという論争が、古くからあったと聞くと、意外な感じがする。生涯、源義経（みなものよしつね）につき従った人物であるのに、実在かどうかを疑われるほど、この人についての記録は少ないのだ。だから、多くの人知っている弁慶像そのものが、むしろ伝説から生まれたと言っていいのかもしれない。剛勇無双、怪力、破天荒。弁慶の伝説は、そんな話ばかりであるからだ。

しかしその伝説には、彼の人間離れた活躍を描きながらも、どこかちょっと間が抜けていたり、ユーモラスな人物像を語ったりしたものも多い。多くの人弁慶を語り伝えるたびに、おそらく少しずつ脚色され、あるいは期待を込めて語られることで、「スーパーヒーロー弁慶」ができあがっていったのだろう。

兵庫にもたくさんの弁慶伝説があつて、小さなものまで含めると、数えることも難しそうである。その中に、主君義経と出会う前の、若き日の弁慶が語られる伝説があるというのも興味深い。源平合戦の舞台でもあつた兵庫県には、より色濃く、義経主従のうわさが語られたためなのだろうか。

始まりは書写山



書写山
(日本真景・播磨・垂水名所図帖)



円教寺
(播州名所巡覧図絵)

弁慶伝説を、弁慶自身の年齢に沿って語るなら、兵庫での始まりは書写山円教寺（しょしゃざんえんぎょうじ）である。若き日の弁慶が、大暴れして全山を焼いたというのは史実ではないが、彼にゆかりの場所や物が、ここに数多く伝えられている。

書写山は、姫路市中心街の北西に位置する。夢前川（ゆめさきがわ）と菅生川（すごうがわ）に挟まれて、南北にのびる山地の南端にある山頂は、標高371m。ふもとからロープウェイに乗り、播磨灘（はりまなだ）を遠望しながら、数分で山上駅に到着する。兵庫県レッドデータブックで、貴重な自然景観にあげられている山は緑濃く、季節ごとに美しい姿を見せてくれる。



摩尼殿

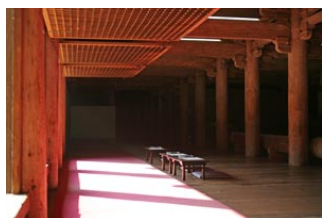
■弁慶石

山上駅からは参道をたどるが、この道は山陽自然歩道でもある。坂は緩やかで息を切らせるようなこともなく、木々の緑や鳥の声を楽しむうちに壮麗な摩尼殿（まにでん）へ導かれる。その摩尼殿前の橋のたもとに、二つの「弁慶のお手玉石」が並んでいる。弁慶がお手玉のかわりに投げ上げて遊んだと言うけれど、抱えることもできないくらいの大石である。まったく弁慶の面目躍如といったところか。もっともこの石には、仏法を守護する乙天（おとてん）、若天（わかてん）という別の伝説もある。

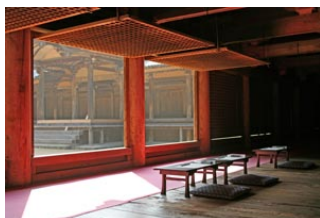
弁慶のお手玉石
(護法石)弁慶のお手玉石
(護法石)

■弁慶の鏡井戸と勉強机

摩尼殿からさらに奥へと歩くと、5分ほどで大講堂、常行堂（じょうぎょうどう）、食堂（じきどう）の三堂が並ぶ広場に至る。大講堂と食堂は、室町時代に建立（こんりゅう）された国指定重要文化財である。その食堂と大講堂に挟まれた一角に、弁慶の鏡井戸がある。



食堂の内部



食堂の内部



蔀戸を上げる

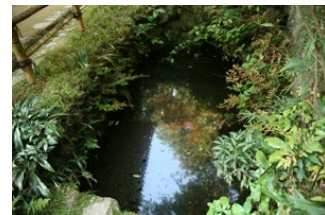
長さ3m、幅2mばかりの長方形の石組みがあり、井戸というよりも池といった感じである。少し濁った水が、それでも静かな水面を見せている。



弁慶の机



弁慶の鏡井戸



弁慶の鏡井戸

食堂の上階は展示室になっていて、数多くの仏像や歴史的な品が陳列されており、その中に弁慶の勉強机もある。自然木を縦割りにして脚をつけた、長さ2mほどの机である。伝説では全山丸焼けとなっているのに、何で勉強机が残ったのかなどと野暮な疑問は別として、荒削りな表面や幹の凹凸をそのまま残した縁は、奔放な弁慶のイメージにぴったりである。

■弁慶の学問所

奥の院は、食堂からすぐである。ここに弁慶の学問所といわれる護法堂拝殿（ごほうどうはいでん）がある。先ほど通った三堂の明るさに比べて、性空上人（しょうくうしょうにん）を祭る開山堂（かいさんどう）を中心にしてとりと落ち着いたお堂や社が並んでいる。

弁慶の学問所
(護法堂拝殿)

奥の院

弁慶地蔵

弁慶地蔵は、姫路市別所の旧山陽道に沿った、静かな住宅街にある小さなお堂の中に祭られている。何の用事があったのか、京へでかけた弁慶が書写山に帰る途中、土地の庄屋（しょうや）の娘と知り合い、ここで一夜を共にしたというが、このお地蔵様自身は、天文年間の銘があるから、16世紀の作ということになり、弁慶の顔は見えないはずである。

英雄が、生涯一度の恋をしたという話は、何だかどこにでもありそうな気がするが、弁慶にはそれがまたよく似合っている。



弁慶地蔵のお堂



お地蔵様



お地蔵様

山を運ぼうとした弁慶



金棒池と雄岡山

神戸市西区にある雄岡山（おっこさん）、雌岡山（めっこさん）は、秀麗な神奈備（かなび）の山で、神々にちなむ伝説もあるのだが、ここにも弁慶話が伝えられている。弁慶がこの美しい二山を庭の築山（つきやま）にするため、持ち去ろうとしたというのだ。

自慢の鉄棒の前と後ろに山を下げて、さてどっこいしょと持ち上げようとすると、鉄棒がぼきりと折れて落ち、地面に大穴をあけてしまった。それが、両山の間にある金棒池になったという。

何とも荒唐無稽（こうとうむけい）な話だが、ここでも、怪力でありながら何となくユーモラスな彼の人物像が描かれているようで、おかしい。雄岡・雌岡の一带も、「兵庫の貴重な景観」にあげられている。神が住む山々と、満々と水をたたえる池は、いつまでも残ってほしい風景である。

幻の弁慶岩



弁慶岩はどこに

弁慶岩があったのは、温泉町の千谷（ちだに）にある「おもしろ昆虫化石館」から、岸田川に沿って谷をさかのぼった岸田の村あたりである。狭い谷筋には、東西からけわしい尾根が迫っているが、川に沿って谷奥まで棚田が開墾されて、独特の風景を見せている。

弁慶岩がどこにあるのかは、事前にくら調べてもわからなかった。とにかく現地を探してみようというので訪れたのだが、村の人に尋ねても、「弁慶岩」を知る人はほとんどいなかった。ようやく知っている人に出会ったが、その答えは「圃場（ほじょう）整備のときにめいだ（こわした）と思う」というものであった。残念なことこの上ないが、もうほとんど忘れられた伝説だから、仕方のないことなのかもしれない。もう何十年か経てば、伝説があったことさえ知る人はいなくなるだろうか。

弁慶岩は、伝説とともに幻になってゆくのだろう。



小さな祠を見かけた

用語解説

【弁慶】べんけい

鎌倉時代前期の僧（?～1189）。源義経の従臣で、武蔵坊と号した。『平家物語』、『義経記』などで豪傑として描かれて伝説化した。それによれば、義経に従って数々の軍功を立て、衣川の戦いで戦死したとされる。その生涯、事跡などについては伝説的な部分が多い。

【書写山円教寺】しょしゃざんえんぎょうじ

姫路市書写にある天台宗の寺院。書写山と号する。康保3（996）年、性空上人が開基。伝説によれば性空は、九州で修行して法華経を修めた後、瑞雲（ずいうん）に導かれて書写山に庵（いおり）を結んだとされる。

10世紀後半に、国司藤原季孝（ふじわらのすえたか）の寄進により法華堂が建設されて以降、堂宇の造営が盛んとなり、講堂、常行堂などの諸堂が建立された。翌年、円教寺の寺号をもって花山法皇の勅願寺となった。その後は、平清盛による一切経の施入、後白河法皇の参籠、後醍醐天皇の行幸など、天皇、貴族の手厚い保護を受けた。1331年には落雷によって堂宇の大半を焼失したが、守護の赤松氏の保護の下に復興に努めて再興した。

現在、円教寺の国指定文化財は下の通り。

<重要文化財>

（建造物）

大講堂・鐘楼・金剛堂・食堂・常行堂（常行堂、中門及び楽屋、舞台からなる）
護法堂（乙天社及び若天社）2棟・壽量院

（仏像）

木造釈迦如来及び両脇侍（わきじ）像
木造四天王立像
木造阿弥陀如来坐像（常行堂本尊）

【播磨灘】はりまなだ

兵庫県の播磨地域に面する、瀬戸内海東部の海域。東を淡路島、西を小豆島（しょうどしま）、南を四国によって画されている。面積は約2500平方キロメートル。近畿、中国、四国、九州を結ぶ重要な航路がある。

【兵庫県レッドデータブック】ひょうごけんれっどでーたぶっく

兵庫県の健康生活部環境局自然環境保全課が編集した、県下において保全・保護の重要度が高い環境、生物を選定・収録した報告書。2003年に改訂版が刊行されている。選定されているのは、動植物種、植物群落、地形、地質、自然景観で、それぞれ基準を設定して重要度別に区分されている。

【山陽道】さんようどう

奈良時代に政府によって整備された、平城京から大宰府に至る道。古代では最大規模の街道で、幅6～9mの道路が直線的に設けられていた。平安京に遷都後は、起点が平安京となる。外国の使節が通行することが予想されたため、同様に整備された七街道の中で、唯一の大路に格付けされて最重要視された。途中には56駅が設けられていた。

江戸時代には、古代山陽道を踏襲して西国街道が整備され、現在の国道2号線も一部で重複しながら、これに沿って設けられている。

【神奈備】かんなび（神南備とも表記する）

古代、神が鎮座すると考えられた山。神奈備山。

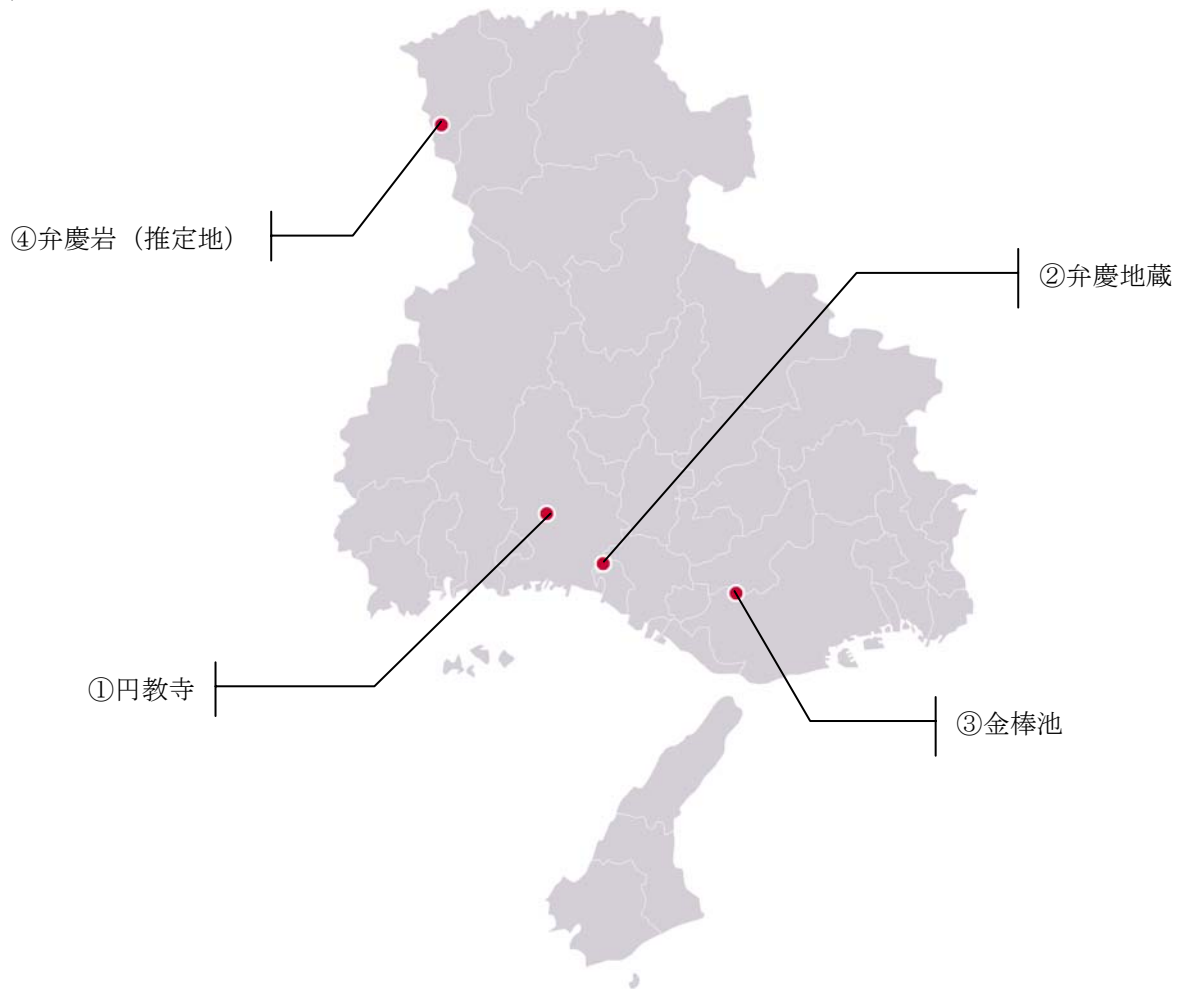
【おもしろ昆虫化石館】

美方郡新温泉町千谷に所在する、昆虫化石の博物館。岸田川上流の小又川付近に分布する、約300万年前の照来層群から発見された、多数の昆虫化石が展示されている。昆虫化石が出土する場所は少なく、貴重な資料が保存・展示されている。（毎週月曜休館、問い合わせ：0796-93-0888）

参考書籍

	書籍名	刊行年	編著者名	発行者
伝説	郷土の民話但馬篇	1972	郷土の民話但馬地区編集委員会	兵庫県学校厚生会
	郷土の民話中播篇	1972	郷土の民話中播地区編集委員会	兵庫県学校厚生会
歴史・文化等	兵庫県大百科事典(上・下)	1983	神戸新聞出版センター	神戸新聞出版センター
	日本伝説大系第8巻	1988	黄地百合子・酒向伸行・田中久夫・福田晃	みずうみ書房
	新版神戸の伝説	1998	田辺真人	神戸新聞総合出版センター
	はりま伝説散歩	2002	橘川真一	神戸新聞総合出版センター

所在地リスト



①円教寺	姫路市書写2968
②弁慶地蔵	姫路市別所町別所620付近 (旧西国街道沿い)
③金棒池	神戸市西区神出町古神
④弁慶岩 (推定地)	新温泉町岸田

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館

〒670-0012 兵庫県姫路市本町6-8 TEL 0792-88-9011

第1刷 2007年4月1日